

高齢者の特殊詐欺、悪質商法被害防止に関する意識調査

新潟市消費者協会

高齢者の消費者被害に関する行政や警察の被害予防、防止対策が、高齢者をはじめ情報が必要な人々に届いているか、どのように受けとめられ、効果はどうかなどの実効性を検証し今後の対策に役立てるために市民の意識アンケート調査を行いました。

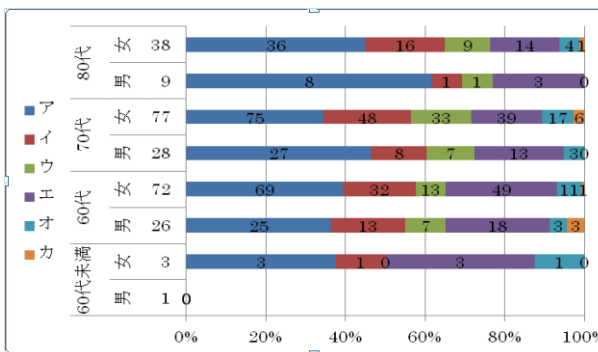
回答者：新潟市民 254 人(男性 64 人、女性 190 人)

アンケート結果のまとめと提言

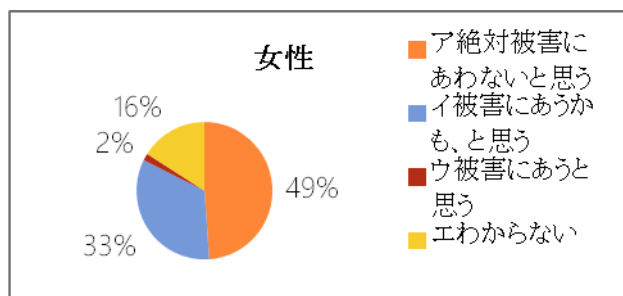
- 1、1人暮らしの高齢者には町内会や回覧板の活用等地域に密着した対応が有効。
- 2、高齢者は一律ではない。性別、年代による心理的傾向や行動を考慮した対策を！
- 3、同居家族や離れて暮らす家族など高齢者以外を対象とした啓発講座も必要。
- 4、2次被害、3次被害の予防のために、被害者への事後の対策が必要。
- 5、消費者の特殊詐欺被害防止には、自立した消費者を育てる消費者教育が重要。

被害防止の呼びかけをどこで見聞きしましたか。 * 新聞テレビは男女各年代ともに最多！

	(人)	男	女	総数
ア、新聞、テレビ報道	243	60	183	243
イ、家族・友人など	119	22	97	119
ウ、地域の会合	70	15	55	70
エ、警察、消費生活センターのチラシ	139	34	105	139
オ、被害防止講座	39	6	33	39
カ、その他	11	3	8	11
無記入	4	2	2	4



詐欺や悪質商法の電話・勧誘があったら、どう思いますか。



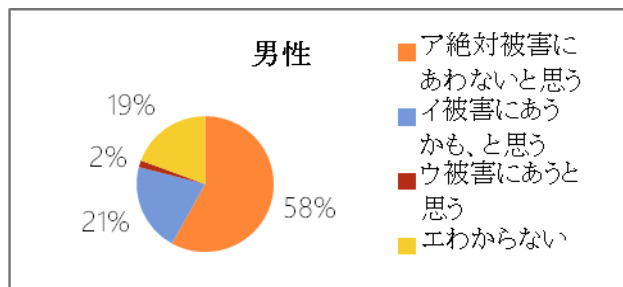
過去に詐欺の電話や悪質商法の勧誘を受けたことがありますか。

回答者 252 人

ある 97人 (4 割弱)

ない 155人

* 誰でも被害者になり得る。



「ある」人に実際に被害にあいましたか。回答者 96 人(男性 21 人、女性 75 人)

あわなかった 92 人

(男性 21 人、女性 71 人)

あった 4 人

(女性 60 歳代 2 人、70 歳代 2 人)

「あった」と回答した人に、被害にあった後どのようにしたか教えてください。

(複数回答)

- ア、警察に通報した1人(70代女性1人)
- イ、消費生活センターに相談した1人(60代女性1人)
- ウ、誰かに相談した1人(70代女性1人)
- エ、何もなかった2人(60代女性1人、70代女性1人)

「あわなかった」と回答した人に、あわなかった理由を教えてください。(複数回答)

(人)	総数	男性	女性	年代内訳 ()内は回答数
ア、相手の声や話の内容がおかしい	56	11	45	60歳代(25)、70歳代(21)、80歳以上(10)
イ、被害や被害防止の報道やチラシを思い出した	21	7	14	60歳代(12)、70歳代(7)、80歳以上(2)
ウ、送金や手続きをする際におかしいと気付いた	6	1	5	60歳代(1)、70歳代(4)、80歳以上(1)
エ、断っているのに必ずもうかる等、何回も勧誘された	16	4	12	60歳代(6)、70歳代(8)、80歳以上(2)
オ、他の人に相談した(家族、友人等)	11	2	9	60歳代(4)、70歳代(4)、80歳以上(3)
カ、金融機関の人に止められた	3	0	3	70歳代(1)、80歳以上(2)

*被害に遭わなかった理由の大半は、電話の受け答えの時点で防止している。

被害にあわないために普段から気を付けていることや工夫していることはありますか。(複数回答)

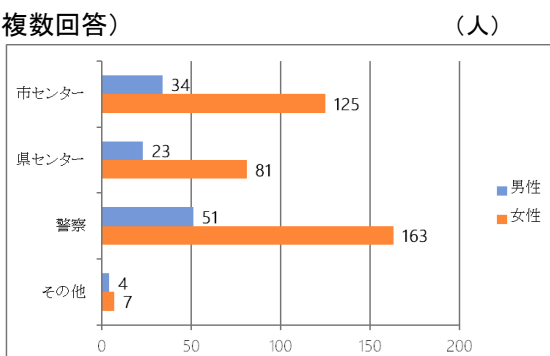
- No.1 「電話での勧誘には即答しない」
- No.2 「テレビ、新聞などを見る」
- No.3 「お金に関する事は1人で決めない」
- No.4 「電話では詐欺に利用される情報は言わない」

*上位に挙げられている自己対策については性別、年代による差は見られない。

(人)	女	男	計
ア、家族と連絡	56	16	72
イ、電話機工夫	64	23	87
2.ウ、報道を見る	96	33	129
エ、チラシなどを家に貼る	22	9	31
1.オ、即答しない	114	38	152
4.カ、情報は言わない	80	23	103
キ、防止講座に参加	30	9	39
3.ク、お金のことは一人で決めない	87	23	110
ケ、その他	14	2	16
無記入	4	4	8

被害防止及び被害にあった場合の相談窓口として知っているのはどれですか。

(複数回答)



- No.1 「警察」
- No.2 「新潟市消費生活センター」
- No.3 「新潟県消費生活センター」